

第62回内航海運活性化プロジェクトチーム議事概要

日 時 平成27年10月8日(木) 14:30~15:45

場 所 北九州市小倉・ホテルニュータガワ 3階 キャロラインの間

出席者 活性化PT委員 宗田、村松、岡田、日浦、

会 長 藤井

担当副会長 藏本

副 会 長 原田、村田

事 務 局 中島、荒木

順不同・敬称略

議 題

1. カボタージュ制度問題に係る件
2. 青年経営者との意見交換会対応に係る件
3. その他

宗田委員長が議長となり、本日の対応につき事務局に対し説明方指示した。

議長の指示に基づき、事務局は本日一連の行程と、前回の船員対策委員会との合同会議における委員各位から指摘願ったメリット・デメリットを一覧メモに纏めたので今後の議論の参考とされたい旨説明すると共に、青年経営者の方も並行して議論が行われており、継続審議となっている総トン数の取扱いについて何らかの提案があるものと思われることから、適宜対応方願いたい旨要請した。

議題1. カボタージュ制度問題に係る件

議長は、カボタージュ制度とは切り離して外国人労働者の受け入れについて、改めて意見を求め、活性化PTとしては次のような方向で今後議論を継続していくこととした。

『日本人船員の確保・育成のための方策・支援を最優先に検討すると共に、外国人労働者の受け入れが困難であることを論理的に証明するための勉強会を継続する。』

議題2. 青年経営者との意見交換会対応に係る件

事務局は、大要以下の通り説明した。

当PTとへ移行して全国青年経営者の会が開かれており、総トン数の取扱いについてアンケート調査結果に基づき、何らかの提案があるものと推測しているが、アンケートの取り方に一部疑問があること、新造船についても緩和方要望があるものと思われるが、そもそもは

既存船についての緩和方要望であった。新造船までも膨らませることについて如何なものか
と感じている。

また、先に当PTが取り纏めた「次世代内航海運における事業者と組織のあり方」の各テ
ーマ毎に議論が行われると聞いており、何れにしてもどの様な意見が述べられるか見当が
つかないので、適宜その場に対応頂きたい。

以上の後、議長は、意見交換会の中では各委員にも積極的に応対方要請し、15：45 閉会
を宣した。

以上